



生徒指導部から（1年生へ）
＝未来の花を咲かせるために＝
2025年6月19日

6月23日は「沖縄慰霊の日」、1945年3月26日から3ヶ月間にわたる沖縄地上戦の組織的な戦闘が終結した日です。「鉄の暴風」と呼ばれた米軍が浴びせ続けた激しい砲撃と空爆、追い詰められた末の精神の破綻が日本軍による民間人の殺りくや集団自決の強要などの悲惨な状況を生み、日米併せて20万人、沖縄県民の4人に1人が亡くなったといわれます。最後の戦闘の地となった摩文仁(まぶに)の丘には、戦没者名簿を刻んだ「平和の礎」、各県ごとの「慰霊碑」が建ち並び、恒久平和への願いを今に伝えていきます。平和の広場中央には、沖縄戦最初の上陸地である座間味村阿嘉島で採取した火と被爆地広島「平和の灯」、長崎の「誓いの火」から分けていただいた火を合火した「平和の火」が灯されています。今年で戦後81年、日本人として、生涯一度は訪れておくべき場所だと思えます。

今、平和な日本に生活しているあなたたちは、自分の未来を自由に描き、努力することができます。それは本当に幸せなことだと感じ、周りにいる仲間たちと励まし合いながら、自分の可能性を磨くために有意義な毎日を送ってほしいと願っています。

ど力のつぼ

(前略) 人がなにかをはじめようとか、いままでできなかったことをやろうと思ったとき、かみさまから「ど力のつぼ」をもらいます。そのつぼには、いろいろな大きさがあって、人によって、ときには大きいやら小さいやらいろいろあります。そしてそのつぼは、その人には見えないのです。でも、その人がつぼの中に、いっしょうけんめい「ど力」を入れていくと、それが少しずつたまって、いつか「ど力」があふれるとき、つぼの大きさがわかるというのです。だから、やすまずにつぼの中に「ど力」を入れていけば、いつか、かならずできるときがくるのです。

(中略) くじけそうになるときでも、このはなしをきいていると、心の中に大きなつぼが見えてくるような気がします。そして、わたしの「ど力」がもうすこしであふれそうに見えるのです。だから、またがんばる気もちになれます。

お母さんのいうとおり、この「さかあがり」のつぼは、ずい分大きいみたいです。「さかあがり」をはじめから、もう二回もこのはなしをしてもらいました。でも、こんどこそ、あとすこしで、あふれそうな気がします。だから、あしたからまたがんばろうと思います。お母さんは、「つぼが大きいとたいへんだけど、中みがいっぱいあるから、あなたのためになるのよ。」と言ってくれるけど、こんど、かみさまからもらうときには、もうすこし小さなつぼがいいなあと思います。

(子どもの作文珠玉集一子どもを変えた『親の一言』作文二十五選 明治図書より)

この作文は、当時小学1年生の角野 愛さんが書いたものです。

人は、誰もが“弱い心”を持っていて日々闘っています。

神様から大きな壺をもらった人は途中で、

「自分には向いていないのではないか?」、

「どんなに努力しても、できるはずがない!」、

「できなさそうだからやめてしまおう」と

努力することに疑問を持つようになります。

そして、壺に水を入れることをやめてしまうのです。



みんなにも、苦手なことがあるでしょう。きっと苦手なことの壺は、とても大きい。また、目標が高ければ高いほど、壺は大きくなります。だから努力をしても、なかなか壺がいっぱいにはなりません。けれど「努力」は必ず一滴ずつたまっていきます。

最後の一滴は明日かもしれません。それとも1カ月後なのか、1年後なのか・・・いつになるのか誰にも分かりませんが、時間はかかってもいつか必ずいっぱいになるはずです。

あきらめずに、「努力」を入れ続けた時、

ある日、突然、壺からあふれると信じて、自分を奮い立たせて、今日も頑張ってみませんか。



現実の世界では、努力をしてもなかなか報われないこと、

努力が実を結ばず、あきらめてしまいそうになることもあります。

そんな時、「いつか水はあふれだすよ!」という幼いきれいな心を映した作文が「あきらめずに頑張る」勇気を与えてくれるのではないかと思います。

そして、最後にひとつだけはっきりと言えることは、

「成功している人は例外なく、『努力し続けた』人だし、

『努力の水』を注ぐことをやめた人には、望むものが手に入らない

ということです。

来週は、1学期末考査です。「努力できる人かどうか」が問われます。